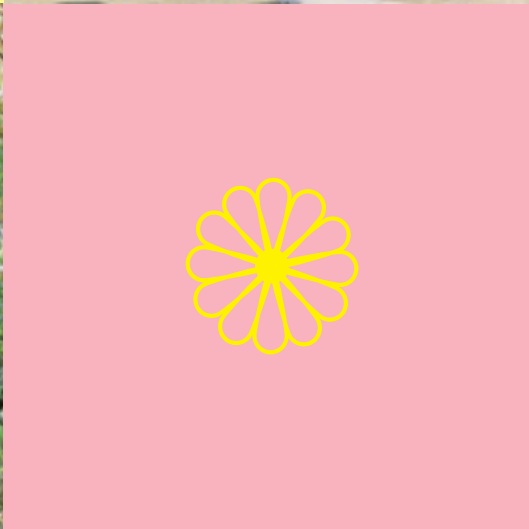
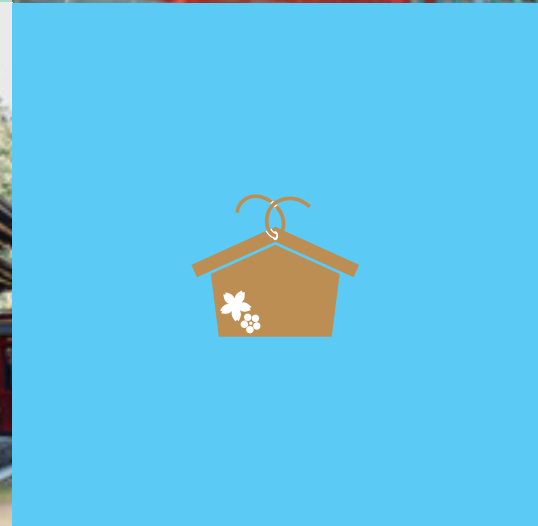




じ し ゃ め ぐ

ぐんま 寺社巡り

＼国指定・県指定重要文化財の寺社が大集合ー!!／



ぐんまの寺社 - 近世装飾建築を巡る -



寺院・神社は古くから地域とともに存在し続けているものであり、郷土の歴史的・文化的な核として、その地域で生活を営む人々によって大切に守り伝えられてきました。

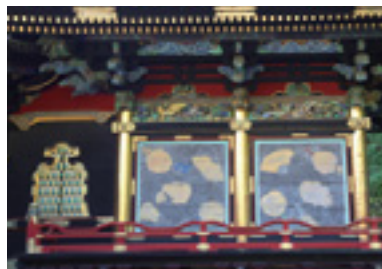
県内の寺社建築を見ると、残念ながら江戸時代よりも古い建築はあまり残されていません。しかし江戸時代の建築は数多く残されており、前期から後期に至るまでの様々な年代に建てられた建築が各地に見られます。

江戸時代になると、寺社建築には彫刻や彩色などを代表とする装飾が発達し、関東地方を中心として広く見られるようになります。群馬県内では、江戸時代以前から江戸時代の後期を通して、幅広く装飾の発展過程や移り変わりを間近に見ることができます。

時期による装飾の変化は、特に彫刻で特徴的に見られます。この傾向は、神社建築の外観に明瞭に見られますが、時代が下るにつれて、彫刻が取り付けられる範囲が広がっていきます。江戸時代より前の時代や江戸時代前期では、軒下の高い位置のみに限定的に彫刻が見られますが、江戸時代中期になると壁にも彫刻が取り付けられるようになります。さらに江戸時代後期になると彫刻は立体的になり、縁の下にも見られ、建物を見上げると軒下の高い位置まで彫刻で埋め尽くされている神社もあります。



江戸時代前期（世良田東照宮本殿）



江戸時代中期（妙義神社本殿）



江戸時代後期（榛名神社本社）

一方、寺院建築の外観は簡素なものが多いようです。しかし、寺院においても時期が下るにつれて向拝部分を中心として彫刻が充実し、内部も欄間などに、優れた彫刻が取り付けられるようになります。

なぜ、寺社建築の装飾が流行したのか

中世までは、寺社建築は構造を見せることが中心であり、彫刻などの装飾は限定的でした。近世になると寺社建築に彫刻や彩色といった装飾を施すことが、東日本を中心に流行します。この理由として、①時代が下るにつれて装飾が発達することから、経済力を身につけてきた民衆が寺社建築に装飾を求めてきた、②日光東照宮の影響もあり、工匠達が技術を磨き、競い合うように装飾を進化させていったことが考えられます。特に神社建築を中心として装飾は発達し、江戸時代の終わりには驚くほどの迫力のある彫刻が見られます。



※時期区分は県内の装飾の観点から区分したものであり、政治史や建築史上の区分とは異なります。(江戸時代以前: 16世紀～17世紀初頭、江戸時代前期: 17世紀、江戸時代中期: 18世紀前葉～後葉、江戸時代後期: 18世紀末～19世紀中葉)



～見どころ色々～

群馬の寺社が分かる Database



1 みずさわじ 水沢寺

県中央部

群馬県渋川市伊香保町水沢214

水沢寺は坂東三十三観音霊場の第十六番札所としても有名です。寺伝によると創立は推古天皇の時代（7世紀初頭頃）です。江戸時代には、将軍から所領を与えられました。江戸時代に整備された境内の建物は、彩色鮮やかです。

- JR高崎駅から群馬バス「伊香保温泉」行き→「水沢観音」下車すぐ
- JR渋川駅から群馬バス「伊香保案内所」行き→「水沢観音」下車すぐ
- 関越自動車道 渋川伊香保I.C.から車で約20分（約10km）

ろっかくにしゅうとう 六角二重塔

建築：1787年

六角二重塔は六角堂、地藏堂とも呼ばれる二重（2階）の塔であり、初層（1階）には参拝者が回転できる六角の台座に六地藏尊を、二層（2階）には大日如来を安置しています。装飾は鮮やかな彩色に加えて、龍や獅子の木鼻（きびな）のほか、二層には十二支を題材とした彫刻が見られます。

江戸時代後期 県指定文化財



2 くえいじ 空恵寺

県中央部

群馬県渋川市上白井3958

空恵寺は寺伝によると806年の創立で、最澄が上野国内で最初に創立したとされています。中世では、白井城主の長尾氏の菩提所となり、墓所が残されています。江戸時代には、将軍から所領を与えられていました。

- JR渋川駅から関越交通子持線「桜の木・上野入口」行き→「伊熊」下車徒歩約30分（約2.3km）
- 関越自動車道 赤城I.C.から車で約15分（約6km）

さんもん 山門

建築：元禄年間（1688～1704）

山門は楼門と呼ばれる2階建ての門です。外観の装飾は少なく、彩色や彫刻はほとんどありませんが、規模の大きな門が石段の上に見られます。少ない装飾の中で、宝珠を3つ並べた彫刻の臺股（かえるまた）が、門内部の梁の上に1つあるのが印象的です。

江戸時代前期 県指定文化財



3 まついだふどうじ 松井田不動寺

県西部

群馬県安中市松井田町松井田甲987

松井田不動寺は、1243年の創立で、松井田院不動寺と号し、松井田の地名の始まりともいわれています。戦国時代には武田家から、江戸時代には将軍から所領を与えられました。中世の石塔婆も見られる、歴史のあるお寺です。

- JR信越本線 松井田駅から徒歩約20分（約1.3km）
- 上信越自動車道 松井田妙義I.C.から車で約10分（約4.9km）

におうもん 仁王門

建築：江戸時代初期

仁王門は、八脚門と呼ばれる通路を挟んで両側に4本ずつの柱を持つ門で、屋根はこけら葺です。門全体は赤色に塗られ、軒下に彩色された彫刻がはめられています。この彫刻には墨書が残っており、建造当初からではなく、1759年に付け加えられたものです。

江戸時代以前 県指定文化財



4 ひなみやくしどう そうほんじ 日向見薬師堂（宗本寺）

県北部

群馬県吾妻郡中之条町四万4371

日向見薬師堂は、987年に源頼光の家臣である日向守貞光（ひゅうがのかみさだみつ）が薬師像を安置し、日向山定光寺を建立したことに始まると伝えられています。薬師堂の手前には同じような茅葺きのお籠り堂が建てられています。

- JR吾妻線 中之条駅から関越交通四万温泉線「四万温泉」行き→終点「四万温泉」下車徒歩約30分（約1.8km）
- 関越自動車道 渋川伊香保I.C.から車で約80分（約51.3km）

やくしどう 薬師堂

建築：1598年

沼田城主真田信幸の家臣が建てたものです。茅葺き屋根の小さなお堂で、外面の装飾はほぼありません。唐草文を線彫した木鼻が柱の上部に見られますが、装飾が発達する前の時代の建物です。群馬県内で最も古い寺院建築で、温泉と薬師信仰の関わりを教えてください。

江戸時代以前 国指定文化財



5 たいねいじ 泰寧寺

県北部

群馬県利根郡みなかみ町須川98

泰寧寺は、1309年に創立され、一時期衰えますが、1537年に洞庵和尚により復興しました。江戸時代に現在地に移動し建物が整えられました。本堂内部の欄間や須弥壇の彫刻は、江戸時代後期の好例の1つです。

- 上越新幹線 上毛高原駅、JR上越線 後閑駅から関越交通猿ヶ京線「猿ヶ京」行き→「たぐみの里」下車徒歩約30分（約2km）
- 関越自動車道 月夜野I.C.から車で約40分（約26.5km）

さんもん 山門

建築：1775年

山門は二重門と呼ばれる2階建てで各階に屋根が付く門です。門に使われている円柱12本のうち11本は、地元の1本のケヤキの大木から材を採ったといわれています。外面は彩色はありませんが、各階の高い位置に獅子の木鼻などの彫刻が見られます。

江戸時代後期 県指定文化財



6 曹源寺

県東部

群馬県太田市東今泉町165

曹源寺は、1187年に新田義重が六角堂を建てたのが始まりで、新田氏の没落後は金山城主の横瀬氏により再興されたといわれています。江戸時代に火災に遭い、その後建てられた観音堂(栄螺堂)を本堂としています。

- 東武伊勢崎線 蕪川駅から徒歩約30分(約2.5km)
- 北関東自動車道 太田桐生I.C.から車で約3分(約1.4km)

さざえどう

栄螺堂

建築：1798年

栄螺堂は、町田兵部栄清等の地元の大工達によって建てられた3階建てのお堂で、江戸の羅漢寺三匠堂を手本としました。室内を一巡すれば百観音を巡礼したことになるという特異な構造であり、現存する栄螺堂建築としては最古級かつ最大規模です。

江戸時代後期 国指定文化財



7 長楽寺

県東部

群馬県太田市世良田町3119-6

長楽寺は徳川義季が1221年に創建しました。顕・密・禅の三学を修行できる場であり、江戸時代になると天海が住職となりました。境内は国史跡の新田荘遺跡であり、古文書など多くの文化遺産があります。

- 東武伊勢崎線 世良田駅から徒歩約20分(約1.5km)
- 北関東自動車道 伊勢崎I.C.から車で約20分(約13km)

勅使門

建築：17世紀中頃

勅使門は、四脚門と呼ばれる格式の高い門です。この門は普段は開かず、勅使や幕府の上使が来るときなどに開けられました。装飾は少ないですが、全体は赤色に塗られ、上部にある横木の上の臺股には天海の二つ引き両の紋が彫られています。



江戸時代前期 県指定文化財

さんぶつどう

三仏堂

建築：1651年

三仏堂は、將軍徳川家光からの援助を受けて建てられました。本尊である阿彌陀如来と脇侍である釈迦如来、弥勒菩薩の三尊仏を安置しています。外面の装飾は少なく、唐草文が彫られた虹梁や木鼻があります。赤色に塗られた江戸時代前期のお堂です。

江戸時代前期 県指定文化財



太鼓門

たいこもん

建築：17世紀中頃

太鼓門は、袴腰という、下層が台形状に広がる形をしている楼門です。鼓楼とも呼ばれており、2階部分には、かつて太鼓が置かれて合図等に使用していました。袴部分以外は赤色を基調として、2階には彩色された円形の装飾が見られます。



江戸時代前期 県指定文化財

8 産泰神社

県中央部

群馬県前橋市下大屋町569

産泰神社は、日本武尊(1~2世紀)の創立とも履中天皇(4世紀)のときに始まるともいわれています。江戸時代には前橋藩主酒井家などの信仰や援助を受け、安産や子育てを願う神社として有名です。

- JR前橋駅から日本中央バス城南運動公園線「城南運動公園」行き→「辻」下車、徒歩約30分(約2km)
- 北関東自動車道 波志江PA(スマートI.C.)から車で約12分(約5.4km)

本殿・幣殿・拝殿

建築：本殿：1763年 幣殿・拝殿：1812年

社殿は、本殿・幣殿・拝殿がつながる権現造で、茅葺きの屋根の形が特徴的です。本殿の外観は建造後に追加された彫刻で埋め尽くされており、軒下から縁の下まで動植物や故事の彫刻が見られます。幣殿と拝殿も装飾性に優れており、幣殿には鯉の滝登りの彫刻があります。

江戸時代中期 江戸時代後期 県指定文化財



9 上野総社神社

県中央部

群馬県前橋市元総社町1-31-45

上野総社神社の社伝によると、紀元前50年に豊城入彦命が祀った事に始まるとされています。平安時代に上野国内のすべての神社を合祀したことから総社大明神となりました。戦国時代に兵火に遭い、その後現在地に移転しました。

- JR前橋駅から徒歩約15分
- 関越自動車道 前橋I.C.から車で約5分(約2km)

本殿

建築：16世紀末

本殿は戦国時代に焼失し、その後再建されました。三間社流造で、屋根はこけら葺きです。装飾は彩色によるものが主体で、壁面に鮮やかな木竹、岩、雲などが描かれています。彫刻は臺股や木鼻などが軒下の高い位置に限定的に見られます。

江戸時代以前 県指定文化財



10 みよきわあかぎじんじや 三夜沢赤城神社

県中央部

群馬県前橋市三夜沢町114

三夜沢赤城神社の創立は不明ですが、平安時代に「赤城大明神」は正一位に叙せられ、戦国時代には上野国内だけでなく、周辺の戦国大名からも信仰を集めていました。近くには古墳時代の祭祀遺跡もあり、古くからの祈りの場です。

- 上毛電鉄 大胡駅からタクシーで約20分(約8.8km)
- 北関東自動車道 伊勢崎I.C.から車で約35分(約19.2km)

11 しぶかわはちまんぐう 渋川八幡宮

県中央部

群馬県渋川市渋川入沢1-1

渋川八幡宮は、渋川氏の祖である義頭が建長年間(1249~1256)鎌倉の鶴岡八幡宮をこの地に祀ったことに始まり、その後に白井城主の長尾氏により社殿が造営されました。戦国時代には武田信玄から所領を受けています。

- JR渋川駅から関越交通伊香保線もしくは渋川コミュニティ渋川温泉〜りんご団地線乗車→「八幡前」下車すぐ
- 関越自動車道 渋川伊香保I.C.から車で約20分(約5km)

12 たまわらはちまんぐう 玉村八幡宮

県中央部

群馬県佐波郡玉村町下新田1

玉村八幡宮は、1195年に上野奉行安達盛長により玉村町角淵に八幡宮を創立したことに始まり、その角淵八幡宮から祭神と一部の社殿を1610年に関東郡代伊奈忠次が現在の場所に祀り、玉村八幡宮が成立しました。

- JR新町駅、高崎駅、前橋駅、伊勢崎駅よりバスあり ●関越自動車道 高崎玉村スマートI.C.から車で約5分(約2.6km) ●上信越自動車道 藤岡I.C.から車で約20分(約7.7km) ●北関東自動車道 前橋南I.C.から車で約15分(約5.4km)

13 はるなじんじや 榛名神社

県西部

群馬県高崎市榛名山町849

榛名神社は、社伝によると586年の創立で、延喜式神名帳に記載されている上野国の十二式内社の一つです。榛名山の山岳信仰との結びつきや、江戸時代の榛名構と呼ばれる集団参詣により、参道も含めて大いに賑わいました。

- JR高崎駅西口から群馬バス高崎〜本郷〜榛名湖線「本郷經由榛名湖」行き→「榛名神社」下車徒歩約15分
- 関越自動車道 前橋I.C.から車で約60分(約30km)
- 関越自動車道 渋川伊香保I.C.から車で約50分(約26km)

こくそじゃおよ 国祖社及び額殿

建築：国祖社：1725年

額殿：1813年

国祖社はかつて地蔵を祀るお堂でした。榛名神社に現存する一番古い建物で、後に向拝部分を中心に彫刻で飾られました。額殿は神楽拝見所として国祖社の隣に増築され、奉納額が掲げられているので、額殿と呼ばれます。赤色の国祖社と黒色の額殿が見事な対比をなしています。



江戸時代中期 江戸時代後期 国指定文化財

ほんでん

本殿

建築：1869年

本殿は復古神道の影響で、伊勢神宮に代表される、神明造という神社建築様式で建てられました。白木の建物で、直線的な切妻造りの屋根に千木や堅魚木が載せられた、簡素な造りです。本殿前の中門や拝殿も同様な造りで揃えられています。

明治時代以降 県指定文化財



ほんでん

本殿

建築：1602年

本殿は、戦国時代に信濃国(長野県)から渋川に移住した入澤氏により建てられた、江戸時代以前の装飾が少ない建築様式の造りです。三間社流造で、装飾は懸魚や手挟みなど、屋根の妻部分や軒下などの高い位置に限定的に見られます。

江戸時代以前 県指定文化財



ほんでん

本殿

建築：1610年

現在の社殿は、本殿・幣殿・拝殿がつながる権現造ですが、幣殿・拝殿は18世紀末に追加されました。本殿は、三間社流造で、外観は鮮やかな赤色です。装飾は簷股や木鼻など限定的です。壁の火灯窓は1771年に追加されました。

江戸時代以前 国指定文化財



ほんしゃ へいでん はいでん 本社・幣殿・拝殿

建築：1806年

本社・幣殿・拝殿は一つにつながる権現造となっています。建物は、基壇により高く持ち上げられているので、縁の下の装飾が目線の高さにあります。装飾は彩色と立体的な彫刻からなり、軒下の高い位置から縁の下まで、柱も含めて濃密に飾られています。

江戸時代後期 国指定文化財



そうりゅうもん

双龍門

建築：1856年

双龍門はやや小ぶりですが、四脚門と呼ばれる格式の高い門です。双龍門の名にふさわしく、扉に龍の彫刻や天井に雲龍画があります。彩色はほとんどありませんが、側面には三国志を題材とした彫刻があり、見上げると迫力のある組物や彫刻が目に入ります。

江戸時代後期 国指定文化財



ぬきさきじんじや
14 貫前神社

県西部

群馬県富岡市一ノ宮1535

社伝によると、物部姓磯部氏が祀ったのが始まりで、531年に現在地に社を構えました。延喜式神名帳の上野国一の宮です。鳥居をくぐり、階段を下ると社殿へと至る、珍しい境内であり、日本三大下りの宮の一つです。

- 上信電鉄上州一ノ宮駅から徒歩約15分(約1km)
- 上信越自動車道富岡I.C.から車で約15分(約7km)

ほんでん はいでん

本殿・拝殿

建築：1635年

本殿と拝殿は、江戸幕府将軍徳川家光により、江戸から工匠を呼んで建てられました。柱の金襴巻をはじめとして、彩色や金具を主体とした装飾であり、軒下の高い位置は極彩色が鮮やかです。なお、本殿の屋根下正面には「雷神小窓」といわれる正方形の小窓があります。

江戸時代前期 国指定文化財



みょうぎじんじや
15 妙義神社

県西部

群馬県富岡市妙義町妙義6

社伝によると、537年にこの地に祀ったのが始まりで、当初は波己曾社と称していました。江戸時代に幕府からの援助を得るなどして、境内が大きく整備されました。妙義山の信仰と共にある神社です。

- JR松井田駅からタクシーで約10分(約5km)
- 上信越自動車道 松井田妙義I.C.から車で約7分(約3km)

ほんでん へいでん はいでん

本殿・幣殿・拝殿

建築：1756年

本殿・幣殿・拝殿は一つにつながる権現造です。江戸から工匠を呼んで建てられました。黒色を基調とした建物ですが、装飾性が高く、軒下には極彩色の立体的な彫刻があります。本殿の壁は平面的な彫刻で装飾し、縁の下はあまり飾らない、江戸時代中期的な装飾です。



江戸時代中期 国指定文化財

はこそしやでん

波己曾社殿

建築：1656年

波己曾社殿は、現在の本社殿が造られる前の本殿と神楽殿を昭和期に合体した社殿です。装飾は軒下の高い位置の彩色が主体で、拝殿部分の柱には黒色漆塗りの上に金襴巻が見られます。彫刻よりも彩色を中心とした、江戸時代前期らしい装飾です。



江戸時代前期 県指定文化財

まついだはちまんぐう
16 松井田八幡宮

県西部

群馬県安中市松井田町新堀1497

松井田八幡宮の創立は不明ですが、1197年に源頼朝が参拝したとの記録があります。江戸時代には将軍家から所領を与えられています。中山道沿いにあり、地元松井田の人々により社殿等が維持されてきました。

- JR松井田駅から徒歩約20分(約1.5km)
- 上信越自動車道 松井田妙義I.C.から車で約10分(約3.5km)

ほんでん

本殿

建築：寛永年間(1624~1643)

本殿は三間社流造の建物で、装飾は簡素であり、唐草絵様が彫られた木鼻と花木を題材としたやや平面的な造りの臺股と手挟みなどが見られます。江戸時代前期らしい簡素な装飾が見られる建築です。

江戸時代前期 県指定文化財



こもちじんじや
17 子持神社

県北部

群馬県利根郡みなかみ町上牧528-1

子持神社は、貞観年間(859~877)の創立と伝えられています。読み方は同じですが、異なる漢字を当てて「小用明神」とされていたこともあり、子宝や安産の神として近隣の人々の信仰を集めています。

- JR上牧駅から関越交通水上線「上毛高原」行き→「小松」下車すぐ
- JR上牧駅から徒歩約30分(約2.1km)
- 関越自動車道 月夜野I.C.から車で約15分(約7.5km)

ほんでん

本殿

建築：1633年

本殿、拝殿に覆い被さるように覆屋が建てられていますが、覆屋も1818年に建てられた歴史的建造物です。本殿は一間社流造で小さく、木賊葺きの屋根です。妻飾りの懸魚はありますが、装飾が少なく、簡素な造りが特徴です。

江戸時代前期 県指定文化財



18 きりゅうてんまんぐう 桐生天満宮

県東部

群馬県桐生市天神町1-2-1

社伝によると景行天皇(71~130)の時代に祀ったことが始まりで、1350年頃に天満宮となり、1591年には現在地に移りました。歴史的な町並みが残る桐生新町伝統的建造物群保存地区の中心的存在です。

- JR桐生駅から徒歩約30分(約2km)
●JR桐生駅からおりひめバス中央幹線 群大系統→「群馬大学桐生正門前」下車すぐ
●北関東自動車道 太田藪塚I.C.、太田桐生I.C.から車で約30分(約13km)

ほんでん へいでん はいでん 本殿・幣殿・拝殿

建築：本殿・幣殿：1793年
拝殿：1802年

本殿・幣殿・拝殿がつながる権現造ですが、拝殿は10年近く遅れて完成しました。本殿と幣殿は、あらゆる所に彩色や彫刻などの装飾が見られます。縁の下にも目線がいくように、本殿は基壇により高く上げられ、彫刻で埋め尽くされた様子は江戸時代後期の特徴をよく現しています。

江戸時代後期 県指定文化財



19 くりゅうじんじゃ 栗生神社

県東部

群馬県桐生市黒保根町上田沢2238

栗生神社は、口伝では707年の創立です。新田義貞の功臣とされている栗生頼方(栗生顕友)を祀っています。山中にあります。彫刻師集団がいた田沢地区の神社です。

- わたらせ渓谷鐵道水沼駅からタクシーで約15分(約6.7km)
●北関東自動車道 太田藪塚I.C.から車で約50分(27km)

ほんでん 本殿

建築：1790年

一間社流造のやや小さな本殿ですが、壁には中国の故事などを題材とした彫刻があり、縁の下にも簡素ではありますが、装飾されています。地元出身の名工関口文治郎による立体的な彫刻で埋め尽くされていて、江戸時代後期の好例の一つです。

江戸時代後期 県指定文化財



20 せらだとうしうぐう 世良田東照宮

県東部

群馬県太田市世良田町3119-1

世良田東照宮は、1638年に日光東照宮から祭神である徳川家康公を徳川氏発祥のこの地に勧請したことに始まります。江戸時代では、社殿の修理は幕府により行われており、將軍家にとって重要な存在であったことが分かります。

- 東武伊勢崎線 世良田駅から徒歩約20分(約1.5km)
●北関東自動車道 伊勢崎I.C.から車で約20分(約13km)

ほんでん 本殿

建築：1644年

本殿は世良田東照宮の創立時に造られました。一間社流造、やや小ぶりですが、軒下の高い位置の極彩色を中心とした装飾が見事です。彫刻は木鼻、臺股など限定的です。妻飾りや瓦など各所に、徳川氏の「三葉葵紋」が見られます。

江戸時代前期 国指定文化財



はいでん 拝殿

建築：1644年

現地で新しく建設された本殿と異なり、拝殿は日光東照宮の奥社拝殿として建てられたものを現在地に移したものです。拝殿の装飾は、本殿と同様に軒下の高い位置の極彩色が中心で、彫刻は木鼻、臺股など限定的です。江戸時代前期に特徴的な装飾を見せてくれます。

江戸時代前期 国指定文化財



21 らいでんじんじゃ 雷電神社

県東部

群馬県邑楽郡板倉町板倉2334

雷電神社は、社伝によると聖徳太子(574~622)により創立され、延暦年間(782~806)に坂上田村麻呂により社殿が造営されました。江戸時代には幕府の援助を受け、將軍綱吉の命令により修理が行われました。

- 東武日光線 板倉東洋大前駅もしくは東武伊勢崎線 館林駅から館林・板倉線バス→「板倉町役場前」下車徒歩約8分(約600m)
●東北自動車道 館林I.C.から車で7分(約4km)

ほんでん へいでん はいでん 本殿・幣殿・拝殿

建築：本殿・幣殿：1835年
拝殿：1819年

本殿・幣殿・拝殿がつながる権現造です。本殿は基壇で高くし、軒下の高い位置から縁の下まで、彩色された彫刻で埋め尽くされており、中国や日本の神話や子供の遊びを題材とした彫刻が見られます。幣殿や拝殿も軒下の高い位置を中心として、立体的な彫刻が見られます。



江戸時代後期 県指定文化財

まつしやはちまんぐういなりじんじゃしゃでん 末社八幡宮稲荷神社社殿

建築：1547年

参拝口の真真中に柱が立つ、珍しい二間社流造です。装飾は木鼻、臺股など限定的で、彩色もありません。群馬県内最古の神社建築であり、装飾が発達する前の中世の建築様式を見せてくれる社殿です。

江戸時代以前 国指定文化財



Access Map

もっと
知りたい人は



ぐんま寺社巡り

「ぐんま寺社巡り」アプリは、歴史的建造物や様々な文化遺産の情報を収録したぐんまの寺院・神社を案内するナビアプリです。ぜひご利用ください！

iPhone用

Android用



ダウンロードは
こちらから



発行日 令和 5年 1月 26日

編集・発行 群馬県

〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1 群馬県地域創生部文化財保護課 TEL 027-226-4684